

第12回新城市若者議会

令和8年3月25日（月）午後7時～午後8時29分
新城市議会 議場

開 会 午後7時

1. 若者議会議長あいさつ

○古瀬有菜議長 若者議会議長の古瀬です。若者議会条例第6条第1項に基づき、本日の進行を務めさせていただきます。ただいまから新城市若者議会市長報告を行います。

5月の第1回若者議会から私たちは、若者が活躍できるまちを実現するべく、何度も議論を重ね、8月の第5回の若者議会では、政策の中間報告を行いました。その後、担当課との意見交換なども通して、令和8年度若者議会予算事業計画を策定し、11月に市長へ答申しました。

本日は、11月に行った市長答申以降、3つの事業についての進捗状況を報告させていただきたいと思います。また、報告後に時間をいただき委員から今期1年間の活動を振り返らせていただきたいと思います。

それでは、事業ごとの報告に移ります。

2. 事業報告

○古瀬有菜議長 初めに、余暇・趣味・居場所委員会による「れっつごーまちなみ！事業」と「帰ってこりん！若者同窓会応援事業」です。お願いします。

発表者は、杉原佑希乃（すぎはら ゆきの）委員、長谷川結乃（はせがわ ゆの）委員、平良陸（たいら りく）委員、小山玄貴（こやま はるき）委員、瀬野和奏（せの わかな）委員、夏目響（なつめ ひびき）市外委員です。よろしくをお願いします。

○平良陸委員 今から、余暇・趣味・居場所委員会の発表を始めます。よろしくをお願いします。

私たち余暇・趣味・居場所委員会では、第2次新城市若者総合政策の「基本目標1 若者が自分らしくいられるまち」という目標を取り上げ、余暇・趣味チームで検討した「れっつごーまちなみ！事業」と居場所チームで検

討した「帰ってこりん！若者同窓会応援事業」を答申しました。

まず、余暇・趣味チームから11月の市長答申後に検討してきた内容を報告させていただきます。余暇・趣味チームでは、4つの手法でまちなみ情報センターのPRを行うことを提案しました。

○杉原佑希乃委員 1つ目は飯田線内における電車の中吊り広告です。現在、まちなみ情報センター内の写真を自分たちで撮影、レイアウトし、広告用ポスターのデザイン素案を作成しました。また、飯田線は新城以外にも通っているので、新城のことを知ってもらうためにも新城の風景を入れました。

2つ目はポスターの掲示です。このポスターは中吊り広告で使用するデザインと同じものを駅や市内に掲示します。

○長谷川結乃委員 3つ目はティッシュ配りです。まちなみ情報センターのPRカードを作成し、2月22日に行われた軽トラ市で若者議会PR用のウェットティッシュとともに配布しました。カードを配り終えることができ、当日にもたくさんの人にまちなみ情報センターを利用していただきました。

4つ目はPR動画、館内ラジオです。自分たちで館内の使い方を撮影、編集しました。完成した動画がこちらです。

（動画の上映）

現在作成中の動画も合わせて若者議会のInstagramのリー플などに投稿する予定です。

○小山玄貴委員 館内ラジオについても、市長答申後に自分たちで内容を考え、作成しました。実際に完成したものがこちらです。

（音声の再生）

以上の4つの手法でまちなみ情報センターをPRします。

○瀬野和奏委員 続いて、チェーン店の誘致に関して答申後に話し合ってきた内容を報告させていただきます。

まず、産業政策課の担当者の方と令和5年度に市役所内で設置された土地利用対策プロジェクトチームのメンバーであった都市計画課の方と意見交換会を実施しました。プロジェクトチームで若手職員を中心に実施された飲食店誘致の検討事例や「なぜチェーン店を求めるのか」という点について話し合いました。産業政策課の方からは地元の個人経営の店をさらに若者が集まる場所にするのはどうだろうかという案もいただきました。しかし、私たち若者が求めている者はチェーン店です。それではなぜチェーン店を求めているのか、深掘りした結果、個人経営の店より気軽に入店できる点や、価格がリーズナブル、長居ができ、勉強や仕事などの作業ができる点が魅力的に感じるからだと考えました。

委員会内ではこのような声が挙がりましたが、実際に新城市に関わる人はどう思っているのかを知るため、簡単なアンケート調査を行いました。12歳から29歳の市内在住、在学、在勤経験のある若者、また過去に1年以上新城市とかかわりを持っていた人を対象にアンケート調査を行い、85人の方に回答いただきました。結果、新城とかかわりのある若者は居場所に満足していないことがわかりました。居場所が十分にあるかという設問では、69.5%の回答者がそう思わない、あまりそう思わないと回答し、新城市内に1人又は友達と過ごすことのできるような場所がもっとあったら良いと思うかという設問に対しては97.6%の回答者が非常にそう思う、ややそう思うと回答しました。この結果から、若者は新たな居場所を求めていることがわかります。

また、若者へのチェーン店需要がとても高いこともわかりました。1人又は友人と過ごす際にチェーン店を利用することがあるかという設問においては、過半数の若者がよく利用する、時々利用すると回答しました。

新城市にチェーン店がもっと増えてほしい

かという設問においては、99.2%の回答者が非常にそう思う、ややそう思うと回答し、この結果より需要が高いことがわかります。

具体的にあったら良いと思う店はあるか自由記述で回答していただいたところ、スターバックスやタリーズコーヒーといったカフェチェーン、サーティーワンやミスタードーナツといったデザートチェーン、ガスト、サイゼリヤといったファミリーレストランなど多くの回答が得られました。その中でも多かったのがスターバックス、ミスタードーナツ、サイゼリヤでした。その店を利用する目的は話したりくつろいだりする理由が多く、これらのチェーン店ではその目的を達成することができるため若者の居場所としてチェーン店を誘致することはメリットになるのではないかと考えました。

今回のアンケートから若者が「気軽に作業したり人と過ごしたりすることのできる場所」としてチェーン店を求めていることがわかりました。一方で、交通手段の不足によりアクセスのしやすさが利用に大きく影響する可能性も見えてきました。また、チェーン店の誘致だけでなく、個人経営の店舗を活用して地域活性化と居場所づくりを両立したいという意見もありました。これらを踏まえ、私たちは場所だけでなく、アクセスや利便性も含めて検討しながらチェーン店の導入を居場所づくりの1つの選択肢として前向きに考えていきます。

最後にチェーン店を誘致することによる市へのメリットをご紹介します。学生や主婦などの雇用の創出、生活の利便性向上による人口流出の防止、また、若者の居場所へのニーズに応えることができ、市へのさらなる愛着形成にもつながります。しかし、若者議会だけではチェーン店を誘致するのは難しいです。そのため、チェーン店誘致の可能性を行政と若者で検討できるような話し合いの場を設けていただきたいと思います。具体的には、

来年度以降実施できるよう場所を設けていただきたいと思います。これでチェーン店誘致に関する報告を終わります。

○夏目響市外委員 次に居場所チームから報告させていただきます。

私たちは、「帰ってこりん！若者同窓会応援事業」と題して、若者のための居場所づくりに関する提案をしました。

私たちの提案の目的は、進学や就職で市外に出た若者が、新城に帰りたと思う場所をつくることです。このような居場所をつくることは、地元・新城とのつながりを維持し続けること、そして、市外で夢を追う若者にとって、新城がいつでも帰ってこられる心の支えとなることにつながります。

その実現に向けて、私たちは同窓会に注目し、市が同窓会の開催を積極的に支援する事業を提案しました。新城市の現行の制度の25歳成人式開催補助金を同窓会の開催を応援する「おかえり若者同窓会応援制度」に拡充・リニューアルする事業となっています。対象年齢を拡充し、補助内容を1,000円から3,000円分のいーじゃん券へと変更しました。

この方向性のもとで、具体的な制度の仕組みを検討するにあたり、新城市商工会を訪れ、商工会の担当者の方といーじゃん券の管理方法などについて打ち合わせをさせていただきました。オンラインでの申請を可能にすること、いーじゃん券の交付タイミングを週末も含め柔軟な対応にすること、当日の急な欠席も想定した制度にすることなど、若者が使いやすい制度になるように詳細を検討してきました。

具体的な制度案についてはご覧の通りで、答申時から大きな変更はありません。市外からの出席やアンケートの回答を要件に盛り込み、適正な補助ができるようにしました。

交付までの流れはこちらになります。申請方法に電子フォームを導入するなど、使い

やすい制度になるよう検討しました。

本事業の予算として、答申の通り合計で21万円を想定しています。初年度はこの規模からスタートし、効果を検証しながらよりよい制度にしたいと考えています。

この事業によって、関係人口の増加やそれに伴うUターンや定住、申請数が少ない既存事業の改善、市の政策の周知やアンケートの収集、いーじゃん券の活用による地域経済の活性化など、新城市にもたらす多くのメリットが期待できます。このようにして、新城に帰りたくなる若者の居場所を創ることを目指します。

以上で、余暇・趣味・居場所委員会の発表を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございます。自席にお戻りください。

次に、新城広め隊委員会による「食歴伝新城の魅力を広散事業」です。お願いします。

発表者は、梅田倫之助（うめだ りんのすけ）、河合夏鈴（かわい かりん）委員、城所英汰（きどころ えいた）委員です。よろしくお願いします。

○梅田倫之助委員 新城広め隊委員会の発表を始めます。僕たちは、第2次新城市若者総合政策の「若者にとって誇れるまち」、「新城市を知ってもらう」をテーマに取り組みました。若者自身が地域の魅力を理解し、それを発信することで新城市への愛着と誇りを育むことを目指します。また、特産品や観光地などの新城の魅力を伝え、「ちょっと気になるまち新城」として認知を広げることが目標としています。

この方針のもと、僕たちは食と歴史に焦点を当て、事業名を「食歴伝 新城の魅力を広散事業」として政策を考えました。

食について取り上げた背景としては、僕

たちは農業課の職員の方の話を聞いて、新城市で専業農家として新規就農することが難しくなっていることを知ったからです。その理由は、初期投資で多額の資金が必要であることや、就農しても野生動物の被害が多いことでやめてしまう人がいるからだそうです。新城市には、梅やほうれん草、八名丸里芋など多くの特産品がありますが、このままでは特産品を作る農業の担い手がいなくなってしまうのではないかと、また、農業関連の仕事を選択する若者が少ないことが問題ではないかと考えました。

そこで、食を通じて学び、まずは多くの人に新城市の特産品を認識してもらい、新城ならコレという付加価値と知名度を上げて、新城市に来る人を増やしたいです。新城市の農業や特産品に興味を持つ人が増えれば、将来的には担い手の確保にもつながると考えました。地域の農家さんたちと協力し合いながら新城の魅力を再発見し、次の世代にも誇れるまち、新城をつくっていききたいです。そして、食という地域の伝統を継承していきます。

新城市で農業に従事する若者を増やすため、政策のターゲットを、市内外の若者と設定しました。市内の若者は地域とのつながりがあり、周囲に相談しやすいという強みがあります。一方で、SNSは不特定多数へ情報発信が可能であるため、市外の若者も対象に含めることで、新城市の農業の魅力をより広く発信できると考えました。これにより、農業への認知度向上と新たな担い手の増加を目指します。さらに、地域産業への関心を高め、将来的な農業の担い手不足の解消にもつながっていききたいと考えています。

○河合夏鈴委員 政策案としては、若者目線で特産品をPRする動画を作成し、YouTube等に投稿します。出演者および動画構成を若者自身が担うことで、同世代の関心や共感を得やすく、若者の心をつかむ効果的な情報発信が可能になると考えています。また、

動画投稿にとどまらず、YouTube広告を活用し、ASMRや農業関連動画を10代から20代にターゲットを絞って配信することで、より多くの若者に効率的にリーチすることを目指します。これにより、新城市の特産品や農業の魅力を広く知ってもらい、地域の食文化への理解と関心を深めるとともに、将来的な農業の担い手の確保にもつなげていきます。

具体的な動画内容としては、自然薯、鳳来牛、八名丸里芋、米といった特産品を題材に、ASMR動画、料理動画、農家訪問動画など、複数の視点から発信し、それぞれの魅力を多角的に伝える構成とします。また、料理内容や農家訪問時の質問事項、動画構成については、既存の公開動画も参考にしながら検討を進めていきます。

具体的な計画としては、来年の1月までを目処にすべての撮影を完了し、全10本の動画を来年度中に順次アップロードする予定です。想定される費用は、撮影および編集に係る費用として204千円、YouTube広告費として315千円を見込んでいます。

動画を作るにあたって、農業のことを体験的に学びたいと思い、先週私たちは作手地域の農家の方の田んぼを訪問して、ペダル操作を必要としないトラクターの運転や、五平餅づくりの体験をさせていただきました。本体験を通じてスマート農業に触れ、農業分野における技術の進歩やその有用性について理解を深めることができました。また、地域に根付いた食文化や伝統について学ぶ貴重な機会となりました。この体験で学んだことを生かしながら、来年度は私たちが主体となり、動画の構成を考えて撮影をしていきます。

この政策を行うことによって得られるメリットは、新城市の食の魅力を多くの人に知ってもらえる点です。特産品に興味を持ってもらうことで購入につながり、生産者の収入向上が期待できます。その結果、金銭的な理

由で農業を辞める人を減らし、担い手不足の解消にもつながると考えました。また、地元の良さを再発見するきっかけとなり、若者が新城市に誇りや関心を持つことができる点もこの政策案のメリットです。さらに、地域への関心が高まり、将来新城市に関わり続けたいと思う若者の増加も期待できます。

○城所英汰委員 次に歴史についてです。歴史について取り上げた背景としては、今の若者が歴史について知らないということが分かったからです。僕たちの周りにいる若者に長篠・設楽原の戦いについてどれだけ知っているのか調査したところ、長篠の戦いが誰と誰との戦いなのか、鳥居強右衛門が助けを求めに行った先はどこなのか、答えることができなかった人が50%以上いました。教科書に載っていたり、長篠合戦のぼりまつりというお祭りの名前になっているので、言葉だけは知っていても、詳しく知っている若者が少ないということが分かりました。若者が歴史について知らないと、歴史が風化する可能性が高くなります。祭りの担い手や語り手の減少も課題となっています。歴史や文化を知ってもらうことで、興味を持ってくれた若者がお祭りに参加し、担い手となる若者が増え、新城市の歴史・伝統が継承されると考えています。

僕たちが提案する政策は、4コマ漫画と巡礼マップを用いたPR事業です。政策のターゲットは小学校6年生から中学校3年生です。4コマ漫画を用いることで手軽で読みやすく、また内容が簡潔にまとまっているので覚えやすくなります。

漫画と巡礼マップの作成にあたり、実際に歴史ガイドツアーをされている方に戦いに関する場所をガイドしていただきました。また、設楽原歴史資料館の職員の方に会議に入っただき、長篠・設楽原の戦いのどの部分を漫画にするのかを相談させていただきました。お二人のお話を聞いて印象に残った

ものや、ぜひみんなに知ってほしいと思った内容を漫画や巡礼マップに取り入れることにしました。

4コマ漫画では、長篠城が攻められているところから、戦いが終わって新城城が築城されるまでを描きます。他にも、教科書に載っていない小話なども一緒に描きます。巡礼マップでは、長篠・設楽原の戦いにとって知っておくべき史跡及び地域の人が今整備などを行っている城跡の紹介を行います。地図だけではなく、写真や説明を入れます。

本政策を実施することにより、新城市の歴史を継承する一助となることが期待されます。若者を中心に、市民が新城市の歴史に触れるきっかけをつくることで、歴史がみんなが知っている身近なものとなり、共通の話題として語り合ったり、自らの言葉で他者に伝えることができるようになっていきます。また、新城市特有の文化を広く発信することで、歴史や文化に関心を持ち、伝統あるお祭りや歴史イベントなどへの参加者の増加が見込まれます。このように、市内外を問わず、多くの人々が新城市の歴史を知ることにより、歴史をきっかけとした関係人口の拡大が期待され、新城市の歴史を自分ごととして捉えてふるさとの誇りとして語ることでできる若者の増加にもつながると考えます。これらの政策を通じて、市民や市外の方に新城市の興味・関心が高まる活動をしてまいります。

以上で新城広め隊委員会の発表を終わります。ご清聴いただきありがとうございます。

○古瀬有菜議長 ありがとうございます。自席にお戻りください。

3. 第10期提案事業評価に係る報告

○古瀬有菜議長 続いて第10期若者議会提案事業の評価について報告を行います。

菅沼堅太（すがぬま けんた）副議長、お

願います。

○菅沼堅太副議長 第10期若者議会提案事業の評価について報告させていただきます。

僕たち第11期若者議会委員は、この2月の若者議会において、第10期若者議会が提案した3つの事業について、評価する機会を設けました。この事業評価は、今回初めて行う取り組みで、令和6年度の若者議会委員が提案した政策を昨年度のメンバーも一緒になって振り返りを行ったものです。

評価方法は、事業を実施した担当課と提案事業の協働委託先であり、今回の提案事業の実行部隊として若者で構成する新城若者連盟から、今年度実施した内容について報告を受け、それについて良かった点、課題点、今後に生かすべき点の共有と評価を採点形式で実施しました。

今から3つの事業の内容ごとに評価結果を報告させていただきます。

まず、若者政策10周年記念事業です。令和7年11月8日に開催した若者政策10周年記念イベント「わきゃっぴ祭」について報告します。このイベントは、著名人の登壇、海外ユースの招聘やキッチンカーの導入により、700名の参加者を新城文化会館に集客し、若者議会の認知度向上を図りました。全体の参加者は多かったものの、本来の目的である参加した若者同士がつながるためのコンテンツへの参加が十分ではなかったため、その点、今後の工夫が必要です。

これまでの10年の活動を振り返る機会となり、若者同士の協力や、海外を含む幅広い若者の参加により、若者の一体感が形成された点が特に評価できます。今後も市と若者が協働し、若者をターゲットとしたイベントや記念事業を継続的に実施すべきであると考えます。

また、昨年度政策提案された内容に未決定の事項が多く、短い期間の中で準備を進め

なければなりません。700名の参加者の内訳も小学生の参加が多く、若者議会の即戦力となる若者層の参加者が少なく、周知方法が課題として挙げられます。

今後は、若者議会の政策提案時により具体的な計画を立て、ターゲット層を明確に設定することが重要であると考えます。第11期メンバーの採点による評価を発表します。4点満点の平均で、目的達成度2.88点、費用対効果2.47点、若者への影響・貢献度2.29点です。参考として、第10期メンバーやメンター職員による採点を含む点数をスライドに掲載しています。

次に、新城魅力探しの旅事業です。つながる地域と若者の輪について報告します。これは、中学生議会を前身とする事業で、近年、若者議会委員がリニューアルを行っています。活動内容は、市内の中学生に参加を呼びかけ、地域の団体や住民の皆さんの協力をいただき、地域の課題について中学生の意見や感想を集約し、若者議会や地域協議会で生かしていく活動です。令和7年9月から11月に座学とフィールドワークを交えながら実施しました。

評価内容は、中学校ごとに特性を活かし実施できたことや、地域団体の協力を得られたこと、授業で実施できた中学校では多くの生徒に参加してもらえたことが成果として挙げられます。さらに、地域とのつながりを築くきっかけを提供し、中学生から前向きな意見が多く出されたことも評価できます。

また、中学校区を超えて介するまとめ報告会は、他校の生徒と交流ができる機会として、今後も継続していくべきだと考えます。一方、課題は参加人数に地域差があることや学校の負担、参加者アンケートの未実施によるデータ不足、地域や若者への認知度不足などが指摘されました。今後は、中学生のアイデアを生かしていく方法の検討や地域との協力の強化、効果的な周知などを進めていくことが必要であると思います。

評価を公表します。点数評価は、目的達成度2.59点、費用対効果2.24点、若者への影響・貢献度2.35点です。

同じく新城魅力探しの旅事業です。電動アシスト付き自転車のレンタサイクルに関するアンケート調査を実施し、事業提案した10期若者議会委員が市長に結果を報告したものです。この事業の詳細内容は、本数が少ない電車やバスの移動先の交通手段として電動アシスト付き自転車のレンタサイクルを推進するために、新城まちなみ情報センターに電動アシスト付き自転車を3台設置し、令和7年1月から3月までの間に379人のアンケートを取った事業です。

評価内容は、アンケート調査を通じて市民の現状把握ができたことと、レンタサイクルの実証実験ができたことが本事業の成果として挙げられます。電動アシスト自転車に着目した点も評価できます。

課題としては、レンタサイクルを推進するにあたり、交通ルールやマナーをどう周知していくかということや提案の実現性の低さ、また「じてんしゃのまち新城」の認知度向上が挙げられます。冬に実証実験を行ったため利用者が少ない点や、データの活用方法の明確化なども改善が必要です。移動手段を増やし、二次交通の強化を継続することは重要であると思いますので、今後は、レンタサイクルのニーズを再度検証し、事業者との協力を進めるとともに設置場所を増やすなどの取組が必要であると考えます。

評価を公表します。点数評価は、目的達成度1.82点、費用対効果1.82点、若者への影響・貢献度1.29点です。

T S U N A G O ～未来共創プロジェクト～です。令和7年12月14日に開催した若者×子ども交流イベント「JUMP UP ミライフェス」について報告します。若者が幼児との交流を通じて共感力や思いやりを育み、子育てや将来について考えるきっかけを

提供することを目的としてイベントを開催しました。この事業により、若者の子どもに対する意識変化や自信の向上を図りました。

イベントには、若者ボランティア25名、幼児114名が参加し、企画段階で設定した目標を上回る成果を達成した点は評価に値します。また、参加者からは継続を希望する声が多数寄せられており、規模の縮小を検討してでも継続的に実施することが望ましいと考えます。ただし、対象が参加者の若者だけに限られている点は課題であると言えます。今後は、より多くの若者に参加機会を提供できる工夫が必要であると考えます。

評価を公表します。点数評価は、目的達成度2.76点、費用対効果2.35点、若者への影響・貢献度2.47点です。

最後に、同じくT S U N A G O ～未来共創プロジェクトです。新城市若者ボランティア人材バンクについて報告します。この事業は、ボランティアが必要な団体とボランティアをしたい若者がつながることができる機会を提供し、持続的に地域活性化を図ることを目的としています。

この事業を通じて、登録者が49人、ボランティア募集依頼が9団体、対象事業が13件となり、若者の地域貢献への意欲を確認するとともに、担い手不足に悩む団体の現状を可視化することができました。

また一方で、マッチング数の少なさ、中学生の不参加、周知不足、申し込み手続きの壁などが課題として明らかになりました。

今後は、制度を継続しながら特設ページの作成、マッチング方法の改善、周知活動の強化などを通じて、さらなる参加者数の増加と地域貢献の活性化を目指して取り組む必要があると考えます。

評価を公表します。点数評価は、目的達成度1.71点、費用対効果1.82点、若者への影響・貢献度1.53点です。

今回初めて実施したことから、まだまだ改

善する点があります。事業の評価は、公正かつ適格な評価が求められると思いますが、大事なことは若者が知恵を縛り、政策提案を行ったことに尽きると考えます。この評価をもとに、効果を上げる事業に改善することや組み合わせにより新たな事業を展開するなど、今後の取組に生かしていきたいと思います。

以上で第10期若者議会提案事業の評価に関する報告を終わります。

4. 1年を振り返って

○古瀬有菜議長 続いて1年の振り返りをを行います。各委員順番をお願いします。

初めに、梅田倫之助（うめだ りんのすけ）委員をお願いします。

○梅田倫之助委員 梅田倫之助です。

この1年間、私は新城広め隊委員会のメンバーとして活動してきました。その中で、新城市が誇る特産品の魅力をどう発信していくか、仲間と議論を重ねてきました。この1年間の話し合いを通じて、以前は新城市に対して、ただ自分が住んでいる場所という他人ごとのような感覚しか持っていませんでした。しかし、委員会の活動で、特産品について深掘りし、どうすればその良さが伝わるかを真剣に考えるうちに、今まで知らなかった地元の魅力や作り手の方々の思いに触れる機会が増えました。この1年で新城市をより深く知ること、このまちに対して、愛着や誇りを持つようになったのは、私にとって大きな一歩です。今度は、この1年で深めた知識を形にして、新城っていいなという気持ちを自分だけでなく、より多くの人に広めていけるよう取り組んでいきたいです。

1年間ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。次に、野澤滯央（のざわ れお）委員をお願いします。

○野澤滯央委員 野澤滯央です。よろしくお願いします。

まずは、自分、この1年間務められて、すごくよかったなと思います。普段の生活でのうのと過ごしていても関わることのできない市のことに対して考えられたということは、僕にとってはすごく成長になったかなと思います。

会議を行っていく中で、いろんな仲間だったりだとか、職員の方だったりとかと関わらせていただいて、より深く新城に対して考えることになって、今後も、自分がのうのとその新城で過ごしてだけでなく、「自分ももっと力になれるな」、「どういったところが問題なんだろうな」ということについても、普段から考えていながら過ごしていきたいなと感じました。

この1年間ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。次に、杉原佑希乃（すぎはら ゆきの）委員をお願いします。

○杉原佑希乃委員 余暇・趣味・居場所委員会の杉原佑希乃です。

私は、この1年を通して、新城市をより知ることができました。初めは、新城市に住んでいるから知っていることはたくさんあると思っていたけれど、まちなみ情報センターPRの政策を考えて、実際に行っていく中で、昔の新城や私の知らなかった新城に出会いました。特に、軽トラ市でのPR活動では、たくさんの発見がありました。私たちのPRカードを受け取ってくれる人、市内外から訪れている人、実際にまちなみ情報センターを利用しに行ってくれる人など、たくさんの温かい人たちと話をすることで、新城って本当にいいところだなと強く感じました。この1年で知った私の大好きな新城の魅力をさらに広

げられるように、これからも新城を大切にしたいです。

1年間ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。
次に、中野智文（なかの ともふみ）委員をお願いします。

○中野智文委員 中野智文です。

私はこの1年間、新城広め隊委員会の歴史PRをさせていただきました。歴史PRをする中で、どのように長篠の戦いについてPRしていけばいいのかなということを考えました。

私はこの1年を通して、自分の積極性が増し、成長したなと感じています。活動当初は、自分の活動に自信が持てず、市の予算を使って活動するって本当に大丈夫なのかなと、自分の中で不安でした。ですので、最初の議会では全く発言ができず、自分でもとても後悔していました。ですので、次の議会ではまず自分の意見を話してみようと思いましたが、すると、少し自分の意見を話してみようという気になり、話してみた結果、とても楽しいなと思いました。自分の意見を話して、みんながそれについて話し合いをしてくれる。そして、その意見が深まっていくのを見ていて、とても嬉しくなりました。活動していく中で、自分は少しずつ積極性が増し、誰かから「あなたはどう思いますか」と言われなくても発言できるようになりました。活動する前は、正直後悔していましたが、今まではやってよかったなと、とても満足しています。

1年間ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。
次に、城所英汰（きどころ えいた）委員をお願いします。

○城所英汰委員 新城広め隊委員会の城所英

汰です。

私は、この1年間の活動を通して、新城市にはたくさんの魅力があることが分かりました。特に、食と歴史というテーマを通して、地域の良さを若者に知ってもらうための工夫をするのが大変でした。ですが、今どきの若者らしい方法をして、分かりやすく、興味をひくものができたと思います。この活動は、単に魅力を伝えるだけではなく、若者が新城に誇りを持つきっかけになるものと思います。今年度学んだ、分かりやすく伝える工夫や、地域に目を向けた姿勢をこれからの社会の中で生かしていきたいです。

今後このような取り組みが広がり、多くの人が新城市に関心を持ち、関わってくれることを期待しています。

1年間ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。
次に、平良陸（たいら りく）委員をお願いします。

○平良陸委員 余暇・趣味・居場所委員会の平良陸です。

私は、この1年を通して、自分から動く力や、相手の意見を尊重しながら話し合う姿勢を身に付けることができました。新城市若者議会で得た経験は、これからの自分を支えてくれる大事なものだと感じています。

今後この経験を生かして、地域や社会に積極的に関わっていきたいと考えています。

1年間ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。
次に、長谷和奏（ながや わかな）委員をお願いします。

○長谷和奏委員 第11期若者議会の長谷和奏です。この1年間を振り返り、ご報告させていただきます。

この1年間は、私にとって、居場所とは何かを深く考え続ける時間となりました。委員会では、若者が求める居場所の実現と現実とのギャップに何度も直面しました。まちなみ情報センターの活用促進を市長答申した後も、十分な変化を生み出せなかったのではないかと心残りもありました。しかし、今年2月に訪れたイギリスの図書館での経験が、私の考えを大きく変えました。その小さな図書館の入口には、インスタントコーヒーや紅茶、クッキーとともに、ごゆっくりお過ごしくださいというメッセージが書いてありました。私は、観光客でありながらも、その図書館が自分の居場所のように居心地がよくなりました。この経験から、居場所とは、単に目的用途に合った空間だけではなく、温かい雰囲気やおもてなしで生まれるものだと感じました。そして、第11期余暇・趣味・居場所委員会で、まちなみ情報センターをもっと自由に使って欲しいというメッセージを発信すること自体が、若者の居場所づくりに貢献する価値のある活動であると実感することができました。

最後に、若者議会に関わってくださった皆様に心より感謝申し上げます。今後も若者の居場所について考え続けていきたいと思えます。ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。
鈴木健司（すずき けんじ）委員お願いします。

○鈴木健司委員 新城広め隊委員会の鈴木健司です。

僕は、この1年の活動を通して、自分の成長に繋がる良い経験ができたと思います。僕は、人前に立って、地域に貢献できる活動に挑戦してみたいと思い、若者議会に参加しました。今年度、初めて参加し、最初の頃は、人前で話すことに苦手意識があったこともあ

り、周りの環境に慣れず、うまく話し合いや提案などができるかどうか不安に感じることも多くありました。しかし、何度か話し合いに参加する中で、若者議会の空気に少しずつ馴染めるようになり、話しやすくなっていきました。さらに話し合いを進め、今感じている市の問題や改善点などの自分の意見がまとまったことで、積極的に議論に参加し、提案することができるようになりました。委員会では決定した提案を形にするために、積極的に意見を出すことができました。初めての参加で、自分の意見がうまくまとまらなかったり、政策に問題点や疑問点などがあつたりもしたけれど、若者議会のメンバーや事務局、地域の方々の力を借りることで、自分たちの政策を作り上げることができたと思います。

1年の話し合いや政策内容の決定を通し、若者議会で活動する経験をして、自分もこの地域の歴史などの学びを得ることができました。この経験を生かし、これからも地域での活動に挑戦していきたいです。

1年間ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。
次に、河合夏鈴（かわい かりん）委員お願いします。

○河合夏鈴委員 新城広め隊委員会の河合夏鈴です。

この1年間、若者議会に参加して感じたことは、自分の意見を持ち、それを伝えることの大切さです。私は、今回初めて若者議会に参加し、最初は会議の雰囲気に緊張してしまい、自分の考えをうまく話せるか不安でした。ですが、話し合いを重ねる中で、周りの人の意見を聞くことで、新しい気づきがあり、自分の考えを少しずつ言えるようになりました。そして、話し合いでは、新城市の課題について考え、どうすればより良いまちになるのか、みんなで意見を出し合いました。その

中で、自分とは違う考え方が分かることができ、とても良い経験になりました。

この1年間を通して、勇気を出して発言することや、周りの意見を大切にすることの大切さを学びました。これからもこの経験を生かして、自分にできることを考えながら行動していきたいと思います。

1年間ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございます。
次に、城所美菜（きどころ みな）委員お願いします。

○城所美菜委員 新城広め隊委員会の城所美菜です。

私自身、これまで人前で発表することや、人と積極的にコミュニケーションをとることに苦手意識がありました。そのような中で参加した初めての若者議会は、不安も大きく、当初は自分の意見をうまく伝えることができませんでした。しかし、メンターの方々や若者議会の皆さんに支えていただきながら活動を重ねる中で、次第に自分の考えを発言できるようになったと感じています。

また、農家の方のもとでスマート農業に触れたり、五平餅づくりを体験したり、地域を訪れて撮影を行ったりする中で、多くの学びを得ました。特に、生産者の方の話を直接伺ったことで、食や農業が私たちの生活を支えていることを改めて実感しました。さらに、自然や景観の魅力にも触れ、新城市の良さを自分の目で捉えることができました。

これまで当たり前感じていた地域の良さを、自分事として考えられるようになったことは、大きな成長であると考えています。

今後は、この経験を生かし、新城市の魅力を自分の言葉で発信しながら、自らにできることを考え続け、より良いまちづくりに貢献していきたいと考えています。

1年間ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございます。
次に、菅沼堅太（すがぬま けんた）委員お願いします。

○菅沼堅太委員 新城広め隊委員会の菅沼堅太です。

私は、若者議会に参加して3年目となります。この1年間を振り返ると、自分自身の関わり方や意識の変化をこれまで以上に強く感じます。1年目は分からないことが多く、議論についていくことで精一杯でしたが、回を重ねる中で、議論の流れを意識しながら発言することができるようになりました。

委員会では、農業や食の魅力を動画でPRする事業について検討してきました。その中で、若者の視点で、どのようにすれば興味を持ってもらえるのかを考え、動画の内容や見せ方について議論を重ねてきました。単に情報を伝えるだけでなく、現場の雰囲気や魅力が伝わるように工夫することの難しさを実感しました。また、意見を実際の形にしていく難しさや、継続をして取り組むことの大切さを改めて感じた1年でした。理想だけでなく、現実的な課題を踏まえて考える必要があることを学び、まちづくりの奥深さを実感しました。

3年間を通じて、若者でも地域に主体的に関わり、まちづくりに参加できるという実感を得ることができました。今後も、自分なりの形で地域に関わり続けていきたいと考えています。

1年間ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございます。
次に、菅沼希望（すがぬま のぞみ）委員お願いします。

○菅沼希望委員 新城広め隊委員会の菅沼希望です。

若者議会に参加したときは、人前で話すことが苦手な自分が若者議会の中でやっていけるか不安な気持ちがありました。自分から話しかけることにも戸惑いを感じていました。それでも、少しずつ会話を重ねる中で、次第に打ち解けることができ、不安な気持ちも和らいでいきました。

1年間の活動を通して、地域の課題について話し合う中で、これまで知らなかった課題や魅力に気づくことができました。

仲間と意見を出し合いながら考える時間は、とても貴重で多くの学びがありました。

1年間ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。次に、三浦千友莉（みうら ちゆり）委員をお願いします。

○三浦千友莉委員 新城広め隊委員会の三浦千友莉です。

今回、私は初めて若者議会を体験させてもらって、普段の生活ではなかなかできないとても貴重な経験をすることができました。その中で特に感じたのは、自分の意見を人前で伝えることの難しさです。自分の中では考えがあっても、それを分かりやすく言葉にして相手に伝えることは、思っていた以上に難しく、改めて伝える力の大切さを実感しました。

また、今回の活動では、学校生活では関わることのないような方々と意見を交わす機会がありました。年齢や立場の違う人たちと話すことができ、とても良い刺激となりました。この経験を通じて、自分の考えを持ち、それを相手に伝える力をこれからももっと身につけていきたいと思いました。

さらに、若者議会を通して、新城市の現状の課題について改めて考え、地域のことを自分事として考えるきっかけにもなりました。これから新城市のより良い未来づくりに少し

でも関わっていけるように、自分にできることを考えたいと思いました。

1年間ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。次に、瀬野和奏（せの わかな）委員をお願いします。

○瀬野和奏委員 余暇・趣味・居場所委員会の瀬野和奏です。

5月の所信表明で、私は真の若者の声を行政に届けたいという思いを述べました。その中でも、チェーン店の誘致に関しては、新城市に住む多くの若者から実際に声が上がっているニーズであり、私自身もその思いを大切にしながら1年間取り組んできました。若者にとって、学校帰りや休日に気軽に立ち寄れる場所があることは、ただ便利というだけでなく、人と交流したり、このまちで過ごす時間を楽しんだりするきっかけにもなっています。しかし、活動を進めていく中で、チェーン店を誘致することの難しさや様々な事情が関わっていることを知り、若者議会だけではどうすることもできないような壁があることも痛感しました。思うように進まないこともあり、悩んだり、自分たちには何ができるのだろうと考えたりすることもありました。それでも、同じ若者議会の仲間と何度も意見を出し合いながら、若者の思いをどうすれば伝えられるのかを考え続けてきました。そして、その積み重ねが今日の市長報告に繋がったと感じています。今回の活動を通して、すぐに結果が出ることばかりではないと感じましたが、それでも若者がこのまちに対してどのような思いを持っているのかを伝えること自体に大きな意味があるのではないかと感じています。今回の報告を通して、若者はこう思っているんだと、少しでも行政に関わる方々の心が動かされていけば、とても嬉しく思います。

そして、これからも若者の一員として、このまちのことを考え続けていきたいと思えます。

1年間ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。
次に、長谷川結乃（はせがわ ゆの）委員お願いします。

○長谷川結乃委員 余暇・趣味・居場所委員会の長谷川結乃です。

私は、自分の意見を周りに伝えることが苦手で、そんな自分を変えるために若者議会に参加しました。初めの頃は、自分の思ったことをうまく言葉にすることができず、落ち込むこともありました。しかし、事務局の方や他の委員会の方々が優しくサポートしてくださったり、最後まで意見を聞いてくださったおかげで自分に自信を持てるようになりました。1年間、若者議会のメンバーとして、新城市を良くするために活動してきました。私は17年間、新城市で過ごしてきましたが、活動を通して、これまで行ったことがなかった場所を訪れたり、知らなかったことを知ったりする中で、新城市の魅力が改めて発見する機会が増えたと感じています。新城市の方々はもちろん、市外の方々にも新城の魅力を知ってもらいたいです。

若者議会での経験は、自分自身が大きく成長できる貴重な機会となり、これまで以上に新城市のことを好きになりました。

1年間ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。
次に、小山玄貴（こやま はるき）委員お願いします。

○小山玄貴委員 余暇・趣味・居場所委員会の小山玄貴です。

私は、この1年間で、自分が普段持って

いる新城への思いを言って、それを実現するためにどうすればいいかを考えたり、実際に実行した若者議会がすごく楽しかったです。私は、朝登校する時に、「おはよう」や「気をつけてね」と言ってくれたり、帰る時に「ただいま」と言ってくれるこの温かい新城が大好きです。そんなまちをこれから先も残していくために、これから先も貢献していきたいと考えています。

1年間ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。
次に、戸塚琉愛（とつか るあ）市外委員お願いします。

○戸塚琉愛市外委員 余暇・趣味・居場所委員会の戸塚琉愛です。

私は、この1年間、若者議会の市外委員として活動してきました。この活動を通して、若者が自分たちで話し合い、政策を立てることができる環境に関わることができ、とても嬉しく思っています。大学の授業で学んでいた政策立案を実際にこの場で実践できたことも、自分にとって大きな経験になりました。実際にやってみると、意見を出すだけではなく、それを形にしていくことの難しさを強く感じました。新城市の考えやこれまでの取り組みとのバランスを考える中で、思うように進まないこともありましたが、それでも話し合いを重ねる中で、自分たちのアイデアが形になった瞬間はとても楽しく、大きなやりがいを感じました。

また、この活動を通して、新城と向き合う中で、より親しみを持つことができ、以前よりももっと好きになりました。そして、自分が少しでも新城市の役に立てたと感じられたこともとても嬉しかったです。今回、初めて政策を立て、実現する、実行するという経験は、難しさもありましたが、それ以上に楽しく、貴重なものとなりました。この経験を

これからにも生かしていきたいと思います。

ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。
次に、片桐萌絵（かたぎり もえ）市外委員
をお願いします。

○片桐萌絵市外委員 市外委員の片桐萌絵と
申します。

私自身は、進学を機に新城を離れて、これ
で3年が経つんですけども、そんな中
でも、若者議会のメンバーとともに新城のこ
とを考えたりだとか、新城に思いをはせる時
間をつくることができるととても幸せだ
ったと同時に早く新城に帰ってきたいな
と思える日々でした。私自身は、今広島
に住んでいるんですけども、1年の半
分以上を自宅の外で過ごしなが
ら全国各地を飛び回る生活をしてい
ます。そのような中で必ず自分の出身地
は愛知県の新城市だとお伝えするよう
にしているんですけども、全国各地に
新城のことを知ってくれている人が
いて、同時に、市外の方、県外の方
でも新城の魅力を私に話してくれる
方もたくさんいるということを知り
ました。そのような中で、地方には
すごく深刻な問題がたくさんあ
って、まだまだ考えなければい
けないこともたくさんあるなと思
いながら、同時に、多様な働き方
であったり、学び方、暮らし方が
できる現代の社会だからこそ、も
っともっとたくさんの人たちが
新城と触れ合っていて、新城の
ことを考えられる、そんな入口
づくりがすごく大切なのではない
かなと改めて思う1年間でもあり
ました。

今後も、私自身がしっかりといろ
んな経験をしながら、その経験
をしっかりと新城に還元できる
ように、まずは頑張りながら、
新城市にたくさんの方がも
っともっと触れていけるよう
な入口づくり、仕組みづくり
をこれからもしていけたら
いいなと思っております。

1年間ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。
次に、夏目響（なつめ ひびき）市外委員
をお願いします。

○夏目響市外委員 余暇・趣味・居場所
委員会、市外委員の夏目響です。

この1年間、京都からオンラインを
中心に若者議会の活動に参加さ
せていただきました。大学進学
を機に新城を離れて3年、市
外委員だからこそその視点を
生かそうと、市外にいる若
者の居場所を作りたいという
思いで政策を検討して参り
ました。そして、私自身が
昨年度経験した成人式のこ
とを目指し、同窓会の開催
を支援する事業を提案しま
した。誰にとっても、居所
があり、誰1人孤立しな
いまちにしていきたいと思
うと同時に、私自身も地
元新城での地域の繋がりを
大切にしたいと思います。

高校生や大学生など、様
々なバックグラウンドを持
つ若者が集い、自分たちの
まちについて議論する空間
はとても貴重なものでし
た。意見を交わす中で多
様な価値感に触れること
ができ、また難しい場面
もありましたが、有意義
な時間にするすることが
できました。一緒に活動
してくださった委員の
皆様に感謝申し上げます。

新城には、自然や積み
重ねられた歴史だけで
なく、人々の温かさが
交わる素敵なまちだ
と思っています。離
れて暮らしている中
で、そのような新城
の魅力を改めて強く
実感しています。そ
んな大好きな故郷
に還元できるよう、
若者議会でのこの
経験を今後の人生
に役立てていきま
す。

最後になりますが、事務局
の皆様をはじめ、若者
議会の運営にご尽力
くださった皆様に
感謝申し上げます。
ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。

が考えた、自分たちが考えた事業が、この先、どうすればもっと良くなっていくのかということを考えることで、若者議会には携わっていないけれども、市のことを考えて、それをもしかしたら地域で発言できるかもしれない。どんな場面であっても、やはりこれから皆さんには、この市政に携わるような生活をしていただきたいなと思います。

この1年の皆さんの活動は、間違いなくこの先の皆さんの生活に良い影響を与えるし、新城市にも、非常に大きな力になると確信をしています。どうか、この1年間の活動を糧に、これからも皆さんが活躍していただきますことを御祈念申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。

皆さん大変お疲れ様でした。ありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございます。

6. 市長あいさつ

○古瀬有菜議長 最後に、下江市長からごあいさつをいただきたいと思います。

○下江洋行市長 第11期の若者議会の皆さん、5月の最初の皆さんの所信表明の時から今日に至るまで大変お疲れ様でした。そして本当にありがとうございました。11月に答申を受けてから、もう5か月。11月の初めでしたよね。11、12、1、2、3。もう5か月近くになりますけれども、その間、答申していただきました事業それぞれにつきまして、さらに議論を重ねて、そしてより精査して、具体的な形で今日ご提案をいただきまして、本当に嬉しく思います。3つの事業、「れっつごーまちなみ！事業」、「帰ってこりん！若者同窓会応援事業」、「食歴伝 新城の魅力を拡散事業」、それぞれ本当に皆さんがこの事業を通して、より良いまちにしたい、そういう思いが詰まった、そんな発表で

あったと、私、率直に受け止めております。

1つ1つ細かく発表していただいたことに触れると時間が足りませんけれども、まず、「れっつごーまちなみ！事業」についてでありますけれども、まさにまちなみ情報センターのある場所は、新城のJR飯田線の駅のすぐ近く、かつての中心市街地の商店街があった場所。新城市は、居住誘導区域という区域を定めていまして、それはまさにあの場所がまず1つ、それから野田地区、そして川田地区、さらに鳳来地区と作手地区においては、町の中心核として長篠、鳳来総合支所近く、そして作手の高里地区、作手の支所近く、そこを中心核として、しっかり人口の集住を保っていったら、お店が立地し続けられるような環境を守っていかなければいけない地域と定めておりまして、そのためのまちづくりの施策を考えていくことが本当に重要であります。本格的な人口減少時代を迎えておりますので、これから人口は減っていきます。町の中心部であっても、もうすでに減っていますし、減っていきます。でもその中で、減っていくスピードを落とすためのまちの中心核居住誘導区域の魅力づくりをしていかなければなりません。そういう核となる場所にあるのがまちなみ情報センターです。まちなみ情報センターの中の活用の仕方であるとか、いろんな魅力づくりが必要なんですけれども、やはり周辺とセットですよ。ですので、周辺の魅力づくりと一緒に考えていくということが1つ念頭に置いておく重要なことだと思っています。軽トラ市もやっています。それから、新城の夜店の時、すごい人が大勢来て盛り上がりますよね。そしてお祭りの時。そうしたものをうまく活用して、さらに中心核の魅力づくりをしていく。それから、どうしても高齢者だけの世帯が空き家になっていってしまうという現状もあります。この空き家、空き店舗もそうですけれども、どう活用していくかということも、当然、行政は行政で考えてい

くんだけれども、若者の、そして市民の、その地域に住んでいる人たちの力を借りてやっていかなければなりません。もうチームで考えていかなければいけないので、この「れっつごーまちなみ！事業」を1つの取り組みとしてですね、広い視点で、この中心核の集住、また魅力づくりを考えていくという視点を持って、さらに事業の精度を高めていただきたいなと思っております。

それから、チェーン店の誘致について、強い思いが伝わってきました、よく理解をしました。飲食店ではないんですけれども、例えば、24時間営業のスポーツジムができましたよね。それから、スズキ自動車の販売ディーラー、スズキ自販が新城の旧の中心市街地の一角にできました。これには、やはり誘致するための、布石があったんですよ。例えばスズキ自販の営業所だったら、やはり軽トラ市のこれまでの取り組みと成果がスズキ自販の誘致に繋がったんです。スポーツジムもそうです。ただ待っていただけではないんですね。企業にとっては、出店するということは、大きなチャレンジなんです。当然、商圈規模がしっかり維持されていくかどうか、そのことが企業にとっては、そこで事業を続けられるか、継続できるかどうか、利益を上げられるかどうかにかかっておりますので、我々はチャレンジしてくれた企業に応える使命があるんですね。そのためにも、ぜひ皆さん。チェーン店についてのご提案いただきました。絶対不可能はないと思います。ですので、これからもその可能性を追求していきましょう。これからいろんな方に出会うと思います。特に、高校を卒業して大学に行く。そして、就職して社会人になる。いろんな方との出会いがあります。思わぬ偶発的な出会いが、そうしたチェーン店の誘致に繋がるというようなことだってあるかもしれません。だから可能性を信じて、追求して、諦めずにやっていきましょう。そんなふうに思ってお話

を受け止めました。協力したいと思います。

それから、「帰ってこりん！若者同窓会応援事業」です。この事業は、25歳成人式という形で取り組んだ事業をさらにもっと、より実効性のあるものにしていくための提案であったと思います。やはり、帰ってきたい、それからふるさとを応援したいという、そういう思いを持ってもらうためには、やはり、小学校とか中学校の義務教育の時からこのまちに誇りを持ってもらえるような、教育もそうですけれども、地域の協力が必要ですよ。そういうことも考えて、この事業だけを考えるのではなく、広く捉えて、そういうことも含めて考えていっていただきたいなと思います。これは、11月にもこんなようなことを言ったかもしれません。そんなふうに思いました。

そして「食歴伝 新城の魅力を拡散事業」であります。皆さん、新城の農業について、それから特産品、農作物について、また農業の現場で作業もしてもらったり、本当に深く掘り下げて、いろんなことを勉強された、知ることができたと思っております。そして、農業の担い手の不足は、やはり農家の高齢化が1つ大きな課題であります。ですので、今本当に、これから何とかしなければいけないという大事な時をもう迎えております。若者が本当に就農できるような環境を作っていくためには、やはりその商品が、農作物が適正な価格でしっかりと流通できることなんですよ。これには、この魅力をPRしていかなければいけないし、付加価値を高めていくためのPRが大事です。ですので、先程鳳来牛であったり、そして八名丸さといもであったり、自然薯であったり、などなどということだと思うんですけれども、新城の奨励作物、もう皆さん勉強したと思いますけれども、苺とか、トマトとか、ホウレンソウがあります。苺、果樹はとても付加価値を付けやすいですよ。稼げる商品だと思います。ですので、

ブドウとかも含めて、新城で生産しておりますし、奨励作物ですので、ぜひそんなもののPR動画も考えていただけるとと思いますけれども、考慮していただきたいなと思いました。

歴史については、今年、新城が長篠の戦いの翌年に、新城に奥平信昌公がお城を構えて殿様になってから450年という新城開府450年の年にちなんだ全国山城サミットというイベントを11月の28、29日、最終の土日にやります。ですので、ぜひこの事業にも関心を持っていただいて、新城の魅力を拡散できるような取り組みにも力を貸していただけるとありがたいなと思っております。

1つ言い忘れました。まちなみ情報センターの館内ラジオ、楽しそうですね。やはりおもしろそうだなと思ったら人が集まってきます。来たら楽しくなって、嬉しくなって、そしてまた輪が広がっていくと思っております。ちょっと言っていること、よくまだ分からなかったこともあったんですけど、第2弾も作ってくれると思いますので楽しみにしております。

ちょっと、いろんなことを、勝手に思ったことを申し上げました。この皆さんの御提案については、一昨日、新城市議会3月定例会の最終日において、令和8年度、新年度事業として、議会の皆さんに議決をいただき、承認をいただきましたので、これをしっかり令和8年度の事業として、より魅力のある事業として、そして市民のためになる、若者が活躍できるまちの実現に繋がる事業になるように、しっかりと事業推進に努めていきたいと思っております。

そして、佐宗議長からもお話がありましたとおり、第10期の若者議会からの御提案についても、皆さん評価をして、今日4点満点の採点で評価点をつけて報告をしていただきました。ありがとうございました。その中でも、例えばレンタサイクルの事業であったり、ボランティア人材バンクの事業について

は、1点何々という、ちょっと2点を下回る点数でありましたが、この事業は、これで終わらせてはいけません。点数が低いということは、まだ伸びしろがあるということですから、この事業をどうすれば伸ばしていけるかということ、これがこれから大事な取り組みだと思っております。この評価していくことが、この検証が、より事業が、さらに魅力のある事業として、もっと言えば、10期のこの政策を、今回の評価だけにとどめずに、もう少し継続して評価をして、新城市の毎年の事業として、事務事業として定着していくぐらいに、皆さんの提案事業を高めていくぐらいの、そういう気概で取り組んでいただきたいなと思っております。

本日、皆さんから最後にお1人お1人の振り返りの一言をいただきました。本当に皆さん、5月に始まりまして、この間、大変大きく成長されたのはもちろんでありますけれども、この市の予算を使って政策を提案するということが、公共の意識を育む、多角的な視点で考えるという、こういう視点で皆さん、本当に大きく変わったと思います。とても心強く感じております。どうか、これからも、皆さん、若者政策、それから市の様々なまちづくり全般に関しても、施策の推進に関心を持っていただきまして、何よりも若者が活躍できるまちづくりにこれからも力を貸してください。

最後になりますけれども、引き続き皆さんの活躍を御祈念申し上げまして、私からの御礼の挨拶とさせていただきます。皆さん、お疲れ様でした。本当にありがとうございました。

○古瀬有菜議長 ありがとうございました。

この1年を振り返ってみると、各委員会において議論がうまくまとまらなかったり、思いどおりに進まず、政策案が大きく変わったりしたこともあったと思います。しかし、

そのような議論を経て、互いに協力し合い、納得のいく政策案をまとめることができたのではないかと考えます。

私自身の振り返りをさせていただくと、私は、今期、第11期に参加させていただき、4年目を迎えました。初めて参加した時は、自分の意見をうまく伝えることができず、委員会が進んでいくことも多くありました。しかし、委員会への参加を重ねる中で、徐々に自信が付き、自分の考えをしっかりと発言できるようになり、自身の成長を感じています。

今期は、余暇・趣味・居場所委員会に所属し、新城市外で生活している人が新城に戻ってきたい、携わっていきたいと思ってもらえるようにするにはどうしたらいいのかを考えてきました。同窓会をきっかけに、新城に戻ってくる機会を作りたいという思いで政策を考え、活動してきました。

この4年間は、私にとって大きく成長するとともに、新城市について深く考えることができた時間でした。発言に迷ったり、悩んだりすることも多くありましたが、その1つ1つが今の自分に繋がっていると思います。また、昨年10期という節目を迎え、次の10年へと繋がる貴重な1年でもありました。そして、提案事業の実行にも関わることができ、非常に良い経験となりました。

今後は、次の世代の皆さんに若者議会や新城市の魅力、楽しさを伝え、新城市が若者の力により、より良くなっていくことを心から願っています。

最後に、今期、議長として若者議会に携わることができたこと、今日、市長報告を迎えられたのは、これまでともに意見を交わしてきた委員の皆さん、メンター、事務局の皆さん、支えてくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。

1年間、本当にありがとうございました。

これをもちまして、第12回新城市若者議会を閉会させていただきます。